

世の中、4 Gだか5 Gだか、テレビの8 Kだかよくわかならない数字とアルファベットの組み合わせが氾濫している。私のスマホには、よく4 Gの文字が表示されるが、その中身は、未だによくわかっていない。「3 K」というと、昔は「きつい」「きたない」「きけん」を表し、若者に嫌われる職業を指していた。今は、「6 K」というものがあるそう。上記の3つに加えて「帰れない」「厳しい」「給料が安い」の3つで負担が大きいとされる職業を指すそうである。

今回取り上げる「3 K」は全く違う。「謙虚」「寛容」「感謝」である。私の教諭時代は福島第一中学校で終わる。4月から教頭になる私は、職場の送別会で「謙虚・誠実・実行をモットーに頑張ります」とあいさつをした。そしたら離任式の日、裏地に「謙虚」「誠実」「実行」と刺繍が施された素敵なネクタイをいただいた。ありがたい職場である。4月1日、そのネクタイをして新任教頭として初出勤したのである。

教頭1年目の私は実際、謙虚・誠実・実行をモットーに自分なりに努力していたと思う。しかし、途中で大事なことに気がついた。この3つでは足りない。この3つではやっていけない。「寛容」と「感謝」がないとやっていけない。最初は「3 K」だったのが、途中から「5 K」になってしまった。教諭時代の私は、この「寛容」と「感謝」が弱かったと思う。若かったこともあるが、傲慢な身勝手な部分がよく顔をのぞかせた。人は置かれた立場によって必要な要素が変わってくる。教諭時代の私では、とても教頭職は務まらない。

教頭1年目の途中からずっと「5 K」を頭に入れて仕事に当たってきた。かといって、完全に身についたものは一つもない。何かあるとすぐに謙虚さがなくなる。気がつくとも誠実さがどこかにいってしまっている。つい感謝の気持ちを忘れそうになる。強いて挙げれば実行と寛容は、他よりはややましかもしれない。

梁川高校にきてからは、自然と「謙虚」「寛容」「感謝」の3 Kがモットーとなった。梁川高校の先生方は、教育愛に溢れ、よくやってくださっている。「感謝」しかない。いろいろな生徒がいる。一人一人思い悩みながらも前へ進もうとしている。「寛容」の心で見えるようになる。そして「謙虚」である。これが私の最大の弱点である。どうもすぐに調子に乗ってしまう。そして失敗する。なかなか学習しない人間だと思う。性格は変わらない。だが行動は変えられる。気がつくとも「謙虚」「謙虚」と何度も反芻していることがある。

謙虚になれると、喜怒哀楽のうち「怒」の感情をコントロールできるようになる。先日、校長室掃除の3年2組の生徒に言われた。「校長先生って、怒ることあるんですか」変われば変わるものである。私は元々そんなに穏やかな先生ではない。確かに梁川高校にきてから怒ったことなどないかもしれない。そんな場面がない。

これからも人間修行に励み、5 Kから4 K、そして3 K、2 Kと数字を減らしていきたい。そして1 Kになったらすごいことだなと思う。その1 Kは、きっと「感謝」だろうと思う。残りの人生を1 Kめざして歩んでいきたい。